



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	シングルマザーの健康とエイジェンシー：子どもへの追加的なケアに着目して〔論文内容及び審査の要旨〕
Author(s)	江, 楠
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(教育学)
Dissertation Number	甲第16310号
Issue Date	2025-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/95294
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	JIANG_Nan_abstract.pdf, 論文内容の要旨



学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士(教育学)

氏名：江 楠

学位論文題名

シングルマザーの健康とエイジェンシー
—子どもへの追加的なケアに着目して—

本研究の目的は、シングルマザーがケアを遂行する過程において、どのようにエイジェンシー（主体的な行動や選択）を発揮しているのかを、シングルマザー自身の健康状態および子どもへの追加的なケアに着目して明らかにすることである。本研究における追加的なケアは、子どもが発達障害を持つ場合や、不登校や心身的健康に問題がある場合に、シングルマザーが基本的な育児や教育に加えて、特定のニーズや状況に応じた追加のサポートやケアを提供することと定義する。

これまでの研究では、主にシングルマザーが直面する経済的困難や、就労と子育ての両立の難しさが注目されてきた。また、母子世帯においては経済的問題や資源不足が顕在化し、シングルマザーがエイジェンシーを発揮する際に様々な制約を受けることが指摘されている。しかし、シングルマザー自身の健康状態が悪化して就労や子育てなど生活に支障がある場合、また、子どもが追加的なケアを必要とする場合、家庭内の困難がさらに複雑化することが考えられる。そこで、本研究では、既存の研究に基づき、ケア遂行能力の低下と家庭内ケア負担の増加に着目し、シングルマザーがどのようにエイジェンシーを行使し、生活を成り立たせているのかを明らかにする。それにより、最も困難な状況に置かれた母子世帯が抱える具体的な課題やシングルマザーの葛藤を深く理解することができ、今後の支援策の改善や支援の質の向上に寄与する知見を提供できる。

以上の課題を明らかにするために、本研究では二つの調査データに基づいて分析を行った。一つは、北海道保健福祉部子ども未来推進局子ども子育て支援課が北海道大学大学院教育学研究院に委託して実施した「北海道ひとり親家庭生活実態調査」のデータを用いた二次分析である。もう一つは、筆者がシングルマザー22名を対象に実施したインタビュー調査である。具体的には、ひとり親になった際に未成年の子どもを育てている女性を調査対象とし、ひとり親家庭になる前後の生活状況や、現在受けている支援者や公的制度からのサポートに対する意識を中心に聞き取りを行った。

本論文の各章の内容は次の通りである。

第1章では、先行研究の整理を通して、本研究の位置づけを明確にしている。まず、母子世帯が直面する経済的困難、資源不足、健康問題といった課題に関する既存研究を検討し、特にシングルマザーの健康状態と子どもへの追加的なケアに焦点を当て、これらの要因

が引き起こす具体的な困難や葛藤についての理解を深める必要性を示した。また、シングルマザーのエイジェンシーに関する実証研究が不足していることに着目し、彼女たちが主体的な行動や選択を通じて困難にどのように対処するのかを分析する視点の重要性を示した。

第2章および第3章では、量的なデータ分析に基づき、母子世帯の生活の基本的な特徴、シングルマザーの心身の健康、ソーシャルサポートの利用状況について確認した。第2章では、世帯状況、経済状況、就労状況などから母子世帯の生活実態を明らかにし、社会経済状況(就労、家計、世帯収入、学歴)に不利な状況にあるシングルマザーが、心身に不調を抱えるケースが一定数存在することを示した。第3章では、母子世帯のソーシャルサポート利用状況を確認し、親からの支援の有無に応じてグループ分けを行い、経済的な厳しさと緊急時の支援不足が重なる状況についても明らかにした。

第4章および第5章では、筆者が実施したインタビュー調査の結果をもとに、シングルマザーの健康状態と子どもへの追加的なケアから見たシングルマザーが抱える葛藤について確認し、さらにソーシャルサポートの利用状況を通じて、シングルマザーのエイジェンシーを検討した。第4章では、シングルマザーの健康状態や子どもの特性に焦点を当て、シングルマザーの葛藤が明らかになった。特に、シングルマザーの健康状態と子どもへの追加的なケアが相互に影響し合うことが確認された。第5章では、シングルマザーがソーシャルサポートをどのように活用しているかに注目し、シングルマザーのエイジェンシーを検討した。私的および公的サポートに限界がある中で、シングルマザーは子どものニーズを最優先し、自己の健康やニーズを犠牲にする傾向が見られた。

終章では、第2章から第5章で行った実証的研究に基づき、母子世帯が抱える複合的な困難と不利、特に困難な状況に置かれたシングルマザーが抱える葛藤を整理した。さらに、シングルマザーのエイジェンシーを検討し、その発揮を制約する課題を提示した。

本研究を通じて明らかになったのは、次の2点である。

第1に、母子世帯における複合的な困難と不利の特徴についてである。母子世帯は、社会的経済状況、健康問題、ソーシャルサポートの不足や偏りといった構造的な不利を抱え、これらが相互に影響し合うことで、母子世帯の生活基盤は一層不安定となる。特に、緊急時の支援体制の欠如や、複数の課題を同時に抱えるシングルマザーへの適切なサポートが求められていることが確認された。

第2に、シングルマザーの健康状態が日常の子育て、家事、仕事、経済、人間関係に与える影響についてである。シングルマザー自身の健康状態は、子どもの健康にも相互に影響を及ぼすことが明らかになった。そして、母子世帯における私的サポートの利用に関して、親の高齢化や親子間（この場合の親とはシングルマザー自身の親を意味する）の葛藤が問題となることが示された。公的サポートにおいては、母子世帯のニーズに適合していない「ミスマッチ支援」の問題が浮き彫りになった。さらに、シングルマザーのエイジェンシーに関しては、経済状況がシングルマザーのエイジェンシーを制約する要因であるこ

とが明確になった。経済的に余裕がある場合、緊急時に適切な対処が可能となるが、多くのシングルマザーは、子どものケアを最優先し、仕事や時間を調整することで対応している。しかし、自身の健康が悪化し、子どもが追加的なケアを必要とする場合には、シングルマザーが自身の健康を犠牲にして子どものニーズを最優先する行動が確認された。

本研究は、シングルマザーのエイジェンシーに注目し、シングルマザーの健康状態と子どもの追加的ケアの有無の組み合わせにより、母子世帯を4つのグループに分類した。この方法により、最も困難な状況にあるシングルマザーのケア遂行能力が低下し、家庭内でのケア負担が増加する際に、シングルマザーが直面する制約の中で、必要とされるソーシャルサポートをどのように選択・行動を行い、生活を維持しているのかを詳しく検討する意義があると考ええる。また、シングルマザーのエイジェンシーを発揮する上での課題を明らかにし、ひとり親家庭への支援策の改善や、シングルマザーとその子どものウェルビーイング（幸福度）の向上につながると考える。